

# 別府大学短期大学部と韓国大邱科学大学の 遠隔講義システムを用いた日本語教育

工 藤 美 佳

## 1. はじめに

遠隔講義システムを用いた日本語教育を実施するようになった経緯を説明する。別府大学短期大学部初等教育科は毎年大韓民国への研修旅行が恒例になっている。また大邱科学大学においても学生が別府大学の夏期講座「別府大学国際セミナー」に参加するなど、両校の学生の外国語習得を目的とした学生の国際交流が以前からさかんである。さらに、同じ世代間の交流を互いの母国語を用いて行うことで得られる教育効果を期待し、平成21年より「別府大学短期大学部・大邱科学大学日韓相互交流講義」を開始した。これは、別府大学短期大学部初等教育科の計9回の韓国語講義に実際に韓国の学生が参加するという企画である。講義内容として韓国側への日本語講義、両大学の学生同士による自己紹介や意見交換、人形劇の実演やダンスの披露等、文化交流もさかんに行われた。最終日には、双校の学生代表が互いの母国語でスピーチを行った。その結果、当該講座内だけでなく、準備に携わった本学に短期留学中の韓国人学生にまで交流の輪が広がるなど、多くの教育効果が得られた。そこで、今年度もそのような教育効果を期待し、10月07日の開講式から全7回の講義行うことになった。

## 2. 遠隔講義システムによる

### 日本語講義の概要

平成21年度より実施されている別府大学短期大学部と韓国の姉妹校である大邱科学大学両校の学生を対象とした遠隔講義システム（インターネットを利用した映像・音声の双方向同時中継テレビ会議システム）を活用する。日本語教師が日韓相互交流講義に参加する韓国現地学生に対して遠隔日本語講義（全7回）を行う。

### (1) 場所

別府大学メディア教育・研究センター4階メディアホール（教師側）大邱科学大学遠隔ホール（学生側）

### (2) クラス

大邱科学大学  
日本語選択クラス 22名

### (3) レベル

日本語能力試験N3～N2レベル

### (4) 日程

平成22年

10月07日（木） 17：10～開講式  
11月04日（木） 16：20～18：00  
11月11日（木） 16：20～18：00  
11月18日（木） 16：20～18：00  
11月25日（木） 16：20～18：00  
12月02日（木） 16：20～18：00  
12月09日（木） 16：20～18：00

### (5) 講義時間

時間	別府大学	大邱科学大学
16：20 17：00	韓国語講義 (40分)	講義開始
17：00 17：20	自己紹介などの語学交流 (20分)	
17：20 17：40	文化交流・サークル紹介 (20分)	
17：40 18：00		※日本語講座 (20分)

※日本語教師による講義

17：40～18：00

## (6) 授業内容

クラス内の日本語レベルの差の問題や、日本語を専門に学ぶ学生と専門外の学生が混在していること、日韓の日本語文法の指導方法の相違などを考慮し、日常的な日本語会話と発声練習を重点的に行った。会話のテーマも、日韓の学生同士の交流に役立つよう、同じ世代の若者同士が話す話題や言い回しを紹介するようにした。

各回のテーマ

- 11月04日 (木) 「あるかどうか／できるかどうかきいてみよう」
- 11月11日 (木) 「親しい人とうわさ話をしてみよう」
- 11月18日 (木) 「親しい人に自分が買った物をじまんしてみよう」
- 11月25日 (木) 「自分が好きな芸能人について友だちの評価をきいてみよう」
- 12月02日 (木) 「友だちに対してキレて (怒って) みよう」

## 3. 実践内容

### 3.1 ハンドアウトの作成

演習時間を多くとるため、また短時間で効率よく項目を整理するために、あらかじめ作成しておいたハンドアウト (図1) を前日までにEメールで送り、語彙の確認とタスクにそった例文 (1つ) を考え書き込んでおくように指示。授業では、学生各自の例文を使ってその日のテーマに沿った会話文型のパターンプラクティスをやりながら、学生が話したい (伝えたい) 内容が日常生活の場でどのように使うか紹介する。

図1 ハンドアウト (2010. 11. 18 授業)

日本語の会話表現 2010. 11. 18

今日のテーマ **「したい人に自分が買ったものをじまんしてみよう。」**

しつもん  
あなたは さいきん なにか 買いましたか。  
なにを 買いましたか。  
↓  
あなたが 買ったもの ( ) を買いました。  
例: KARA のDVD  
ふゆもののコート  
チャンネルのバッグ

1 買ったものをじまんする表現

ア きいてきて。  
イ ねえ、みてみて。  
ウ どう?

A 買ったものが、いま、ここにはいとき  
きいてきて、( )、買ったんだ。

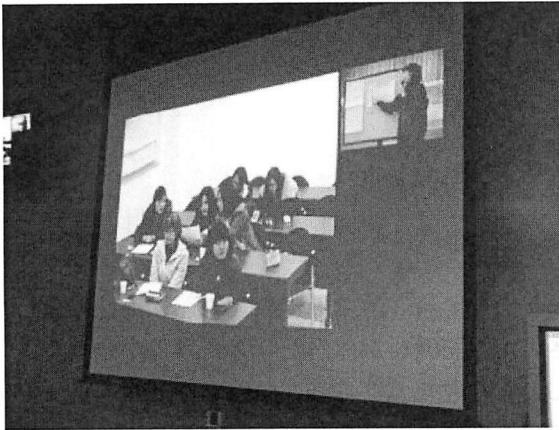
B 買ったものが、いま、ここにあって、あいてに見せるとき。  
ねえ、みてみて、この ( )、買ったんだ、どう?

練習 あなたが買ったものを、したいともだちにじまんしてみましょう。

### 3.2 双方向性のある授業の工夫

本システムの本来の目的である双方向性の遠隔授業を展開するため、自分の日本語がどのように相手に伝わっているか再確認できるような内容を計画し、(教師によるディクテーション等) 学生に多くの発言の機会を与えた。その際、日本語が得意な学生ばかりが発言し、その他の学生が苦手意識を持ってしまう危険を避ける工夫をした。どのような工夫かというと、始めは恥ずかしがってなかなか自発的に発言できなかった学生もいたため、受講学生の名簿を現地からEメールで送ってもらい、こちらから指名して発言を促すようにした。また、お互いのモニターの位置とカメラの位置が異なり、学生の表情の把握や、教師の視線など意思疎通を図る上で困難な場面もしばしば見られるので、つねにカメラの位置やマイクの音量に気を配って授業を行った。しかし、発言の回数を重ねるうちに、学生も顔を上げ、お互いの表情や動作を確認する余裕もでてきたようだった。

写真1 モニター画面



### 3.3 現地日本語教師による協力

日本語講義がある日は現地校でも2時間程度予習時間を設けていることを両校担当者の打ち合わせで把握した。そこで、大邱側の担当講師の林（イム）先生とネイティブの先生に授業の前にハンドアウトの語彙の確認や読みの練習などの指導をお願いしたところ、快くご協力していただけた。また、コーラスの企画では、システムの都合上若干のタイムラグが出てしまい、ときどきタイミングが合わなくなる場面も見られたが、その際も現地の林先生にフォローをしていただいた。

### 3.4 双方担当者による打ちあわせ

授業終了後、本システムを使用し、双方の担当者で機材の技術面での調整や授業内容について毎回協議を行い、マイク音量の調整や配布プリントの内容、次回講義の打ち合わせなど、事細かに打ち合わせを重ねた。

### 3.5 今後の課題

20分という短時間でいかに効率よく日本語講義ができるかという点と、いかに双方向性同時中継システムを活用できるかという点が今後の課題である。この2点を同時に成立させるためには、かなりの工夫が必要となる。そのためには、システムの技術的な面や学生の日本語レベル及び学習動機の把握、機材の使用や教材の掲示の方法等、事前に入念な打ち合わせが必要不可欠である。授業者はそれらをふまえて授業内容を検討しなければならず、常に工夫改善を心

がける前向きな姿勢が求められる。

写真2 講義の様子と周辺機器

